



発行所
 日本聖公会 東北教区
 仙台市青葉区国分町2-13-15
 TEL 022-223-2349
 FAX 022-223-2387
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」
野菜売りのおばさん。

主教 ヨハネ 佐藤 忠男

これはまだ教会で暮らしていた頃の、ある夏の思い出。チリリン・チリリンと鳴るドアベルの音を追いかけるように「お早うございま〜す」と、野菜売りのおばさんの声。台所にいた妻が、すかさず「ハ〜イ」と応えて、パタパタタと廊下を小走りに走ります。いつもの我が家のドラマの始まりです。



今朝も小柄で陽気な野菜売りのおばさんが、自分の畑で育てた旬の野菜をリヤカーに積んで、一人で引いてきてくれました。近くに八百屋さんがないので大助かりです。昨日会ったばかりなのに、野菜売りのおばさんと妻は、積もる話でもあるのか、リヤカーを間に挟んでのおしゃべりが楽しげに弾んでいます。その笑い声に惹かれて私もリヤカーに近づくと「あら、旦那さん。お早うございます。今日も絶対調ですよね。」と、私のセリフを先取りして言ってくれたおばさんは「旦那さん、葉生姜ありますよ。うす切りにして味噌漬けにすれば、お昼には食べられますよ。さっぱりしておいしいから。」

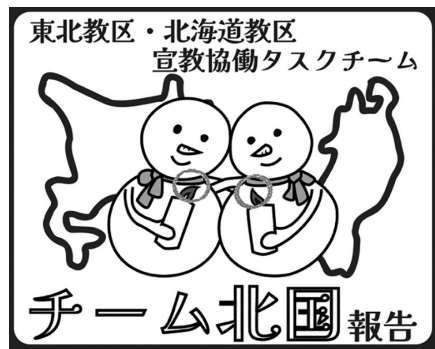
日も絶好調ですよね。」と、私のセリフを先取りして言ってくれたおばさんは「旦那さん、葉生姜ありますよ。うす切りにして味噌漬けにすれば、お昼には食べられますよ。さっぱりしておいしいから。」

翌朝、チリリン・チリリンドアベルが鳴り、「お早うございま〜す。」と張りのある野菜売りのおばさんの声。「旦那さん、約束のトウモロコシ持ってきたんよ。」と言いなから、リヤカーに積んできた大きな竹籠の中を探していましたが、やがて「ありました、ありましたよ。」と額の汗を拭きながらの、おばさんの声。手渡されたビニールの袋には、何と黒色のマジックペンで「キリスト」と書かれていました。「おばさん、私はキリストじゃないよ。」と言うと、「佐藤さんはこの辺りには多いもんですから、キリストと書いておけば間違いないからね。」と、明解国語辞典。そういうことだったのかと納得してビニールの袋の中を見る

と、トウモロコシが4本見えたので「おばさん、うちは3人家族だから1本多いよ。」と言うと、「なんの、なんの。間違いじゃないよ。お宅にはキリストさまがいらっしゃるでしょう。1本はキリストさまの分よ。キリストさまと一緒に召し上がれ。」と言ってくれた、おばさんの笑顔がうれしい。それまで、私の家族は3人とはかり思っていました。「お宅には、キリストさまがいらっしゃるでしょう。」の、野菜売りのおばさんの声に、主はいつも共におられることを気付かされた次第でした。

「おばさん、今日はトウモロコシをありがとう。」「なんも、なんも。こちらこそさ。明日またきます」とおたがいの感謝の言葉が行き交います。野菜を載せたリヤカーの重みを残しながら、1歩ずつ、ゆっくりにゆっくりに前へ進んでいくおばさんを町角に見えなくなるまで見送りながら「主がその手をとらえていてくださる。」(詩編37編24節)の思いが、からだいっぱい広がりてまいりました。

(元東北教区主教)



北海道教区
クララ 吉谷 かおる

北国にも「危険な暑さ」の夏が到来。そんな中、一服の涼をもたらすふたりの雪だるまの愛称が「ともにん・あゆむん」と決まりました！マフラーの結び目が向かって左（顔の右）にあるのが「ともにん」、向かって右（顔の左）にあるのが「あゆむん」です。「どんなときも共に、イエスさまのみあとを歩んでいこう！」という「ともにん・あゆむん」をどうぞよろしくお願いたします。

「チーム北国ホームページ」では全候補（51件）を紹介する予定です。どれも可愛い名前ばかりで、選考はとても難

しかったです。多数のご応募、ありがとうございました。

2028年4月の新教区設立を目指して、チーム北国の取り組みは、両教区の諸規程を照らし合わせる作業、経理関係を統一する試みなど、より具体的になってきています。6月下旬には「新教区名の公募・新主教座聖堂に関する思いの募集について」をみなさまのお手元にお届けしました。応募用紙に「新教区名」「新教区名に込めた思い」「主教座聖堂についての思い」を書いてご提出ください。

「知っておきたい1・2・3」等の説明資料を携えての教会訪問も両教区で進んでおり、小さな疑問や心配なことなどもお聞かせいただくよい機会になっています。宣教協働セッションでは、両教区から参加者が得られるような楽しいプログラムを検討中です。

「チーム北国ホームページ」QRコード
<https://sites.google.com/view/nskk-teamkitaguni/>



平取聖公会



平取聖公会の宣教開始は、1879年9月にデニング司祭に伴われたジョン・バチエラー師が平取コタンの平村ペリウク氏宅に逗留した時を起点としています。同師は1893年6月に平取での初めての洗礼を行い、2年後の1895年に最初の教会・礼拝堂が建てられました。第二次世界大戦を経て、1949年4月、バチラー保育園が開設され、本町地区唯一の「認定こども園」として地元に大いに貢献しています。現在信徒7名の小さな群れです。

東日本大震災被災者
支援プロジェクト報告

◆当プロジェクトでは来年迎える15周年の記念礼拝、講演会について動き出しました。発信拠点となる主会場をどこにするか、説教者をどなたにお願いするか。どの観点からの講演内容にして、講演者をどなたにお願いするか、等々検討を重ねて決めていきます。また年一回開催する「広畑お茶会」の今年の実施日や場所の決定、プロジェクト活動全体の上期の総括、下期の予算見込みなどの打ち合せも行いました。もちろんのこと、現地活動として月1度の「水曜喫茶支援」（原発事故被災者の皆さんとの語らいの場）を重視しています。「日々の祈りと働きとして小さくても、止まることなく……」を motto として。

◆7月の水曜喫茶支援は3名の参加でした。灼熱高温の中、皆さん体調に気を配りながらご参加くださいました。いつもの関係支援者皆様からの心のこもった差入れに感謝します。（リーダー 浅原 和裕）

常置委員会報告
(第9回・7月14日)

報告事項▼主教報告…9月4日(木)～5日(金)、北海道教区婦人会大会に招待され参加予定。

協議事項▼若松諸聖徒教会の建築（境内地変更）に関する状況について、オンラインで若松諸聖徒教会管理牧師、教会委員、若松聖愛幼稚園園長から報告を受けた。▼ミヤンマー地震被災者支援募金について教区内各教会からの募金と教区の災害支援資金から総額30万円を募金する。管区を通して募金することを確認。

▼釜石支援センター望より、東日本大震災の国の復興予算が削減され、岩手県や釜石市の助成金等も打ち切られて活動継続危機状況にあることから、活動資金援助の依頼があり、同センターの今後の活動計画を踏まえた上で教区の災害支援資金より2025年度、2026年度でそれぞれ50万円ずつ資金援助することを決定。



秋田聖教区

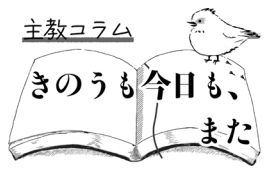
ヤコブ 江川 悠介



大学生だった10代の頃、学習塾でアルバイトをしていました。中学生に歴史を教えていると「なんで英語を話せない当時の人たちの間で、そんなにキリスト教が広まったの？」と質問されることがあります。当時の自分は教科書通りに「孤児院や病院を作ってくれたからじゃないかな。」と答えていましたが、「みんなとびきり優しかったんだよ！きつとよ」と、もう少し付け足しておけばよかったなあと後悔することがあります。社会人になって数年がたつ

た20代後半。インターネットニュースで、「日本のクリスチャンは国民の1%」という記事を読んだことがありました。しかし、社会人になる前から、自分と関わりのある人たちの中にクリスチャンがたっくさんいたことに気付きました。大学時代のあの後輩や前の職場の同い年の同僚、たまに訪れる食堂の一回り年上のマスター。長らく会っていない友人でも人伝に聞いたことでもあります。なぜ自分の周りには1%以上のクリスチャンがいたのでしょうか。それは、その人たち全員がとびきり優しい人だからです。その優しさに惹かれて、自分も声を掛けたに違いありません。30代も終わりに近づき仕事で県外へ赴任していた時、新天地の環境に慣れない上、仕事のことや生活のことが右も左も分からず、その日を暮らすので精いっぱいこの時期がありました。そんな折、当時は宗派などまったく知らず、初めは同僚や知り合いに付き合うような形でしたが、気分転換にと教会に行つて、聖歌隊の歌を聴いたり、コーヒーをこちそうになったりしていました。教会に集う方々は、全員優しく、不慣れで日々困っている生活のことや地域の情報について教えてくれました。きつとこの時の感謝の気持ち、今秋田の教会に足を運ぶベースになっていると思います。

そして今、自分は特別支援教育に携わっています。養護学校が義務化されたのは1979年(昭和54年)。ちょうど自分の生まれた年です。戦後日本の障害者福祉を切り開いた「社会福祉の父」と呼ばれている糸賀一雄という教育者がいました。彼の残した言葉に『この子らに世の光を』ではなく『この子らを世の光に』とあります。自分は初めて聞いたときに、なぜ光という単語を用いたのか不思議でしたが、それは彼がクリスチャンだったからだと後に知りました。自分だけでなく、きつと誰もが導かれて今に至っているのだと思います。



4月の大阪 教区主教按手式に続き、7月5日九州教区主教按手式ならびに九州教区主教就任式が挙行され

て、マルコ柴本孝夫新主教が誕生しました。私が柴本主教で一番に思い浮かぶのは支援車両です。

2011年3月11日東日本大震災後に日本聖公会が立ち上げた被災者支援「いっしょに歩こう！プロジェクト」では、活動のため複数台の車両を必要とし、沖繩教区からは新車同然の10人乗りワゴン車が提供されました。ワゴン車は沖繩から九州に輸送後、当時の柴本司祭と九州教区信徒の山本尚生さんが陸路丸々2日間掛け本州縦断、仙台まで運転して来てくださったのです！これだけでも凄なお働きでした。

車のボディには、聖公会の日本宣教開始とされている米國聖公会リギンズ宣教師とウイリアムス主教が長崎に上陸した1859年より13年前の1846年に、イギリスの琉

球伝道団から「ベッテルハイム」という医師の宣教師が那覇に来て、迫害の中で8年間伝道していたその人の名が印字されていました。「沖繩」のナンバープレートに、スタッフは「うちなんちゃー」の愛称を付けて愛用しました。緊急救援物資を北は釜石から南は小名浜まで運び、被災された方々をお乗せしてお茶会や買い物ツアーにお出かけをし、全国から来たボランティアたちの輸送や訪問者の送迎など、13年間多くの場面で大活躍した車両でした。

昨年の能登半島地震後うちらなんちゃー号は京都教区災害対策室に移譲され「京都」ナンバーで使用されています。私は京都教区主教館前に駐車しているその車を目撃し、感無量でした。柴本主教さんたちの行為は、こうして次から次へとバトンタッチされて、奉仕の継承がなされているのです。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、私は日本聖公会の宣教の歴史と継承、全体性と一体性、教区間協働の象徴としてのうちなんちゃー号に希望の光を感じます。

(教区主教)



能代キリスト教会

6月29日、合同礼拝を実施した。秋田、大館、能代の3教会と、東京方面からのお客様、合わせて33名が聖餐式に参加。能代キリスト教会ではこんなにも多くの参列者で礼拝堂がいっぱいになったのは珍しく、宣教100周年記念礼拝以来だった。

礼拝後は、ホールで持ち寄りの弁当を共にして、しばらくぶりに近隣の信徒との交流を深めた。お客様は、1927年から1年間勤務された山本秀治氏のご長男山本貞彰司祭と交流があった方々だった。長崎から飛行機で来た方や、県南の西馬音内の和賀靖子さんらは、山本司祭との親交があり、感慨深いものがあった。山本秀治司祭は1930年にも再び能代に1年間おられた。その後は2016年には山本貞彰司祭が85年ぶりに故郷能代を訪問されており、能代へ

の思いが忍ばれ、今後とも交流が続くことを願っている。

米沢聖ヨハネ教会

経験したことのない暑い夏が来ました。最近の礼拝の様子などをお知らせします。

毎月第2主日と第4土曜日、涌井康福司祭の聖餐式があります。この数年、施設に入居中のご高齢の方々と聖餐式とともにすることができず、コロナの終息を願っておりました。6月に涌井司祭と山形の施設を訪問し、97歳の方の病床聖餐が実現できて、感謝しています。感染防止のため30分の短い面接時間のうちに共に祈ることができました。次の機会を願っています。

103歳で天国にお送りした信徒の方のご長男が、昨年堅信を受けられ、主日礼拝に加わっております。数十年ぶりに故郷に帰ります。若い頃に他教会で受洗された頃の話にも花が咲きます。

コロナ禍の前に時々教会を訪ねてくださった他教会の方や、ギデオン教会のメンバーが礼拝に加わることもあります。毎週火曜日にハンドベル

の練習会場として使っていたなど、いろいろな形で主にある交わりが広がっています。機会を作って、3月11日はお隣の福島聖ステパノ教会との合同礼拝、8月3日は山形での「チーム北国」の集いにも参加しました。

若松諸聖徒教会

この夏は宣教強化資金運用グループの島守リーダー方々3名が、暑い中訪問してくださいました。

6月21日に教会附属聖愛幼稚園で「聖愛フェスティバル」が行われました。先生のゲームコーナー、園長先生の読み聞かせの時間、地域のキッチンカーなどがあり、幼稚園や教会に連なる方、地域の方々が沢山おいでくださり、大盛況でした。教会でも会津木綿のはぎれで好きな絵柄を作るワークショップをやらせていただき、特に園児、卒園児と楽しいひと時を過ごしました。

み言葉の礼拝に足を運んだ時のこと、20代くらいの男性が訪ねていらして「ここは教会ですか」と聞かれました。今は幼稚園を間借りしている

こと、司祭がいらして聖餐式を行うのは月2回ということをお話すと「聖餐式に出たいのでまた来ます」と、額に汗を滲ませて帰られました。せっかく教会の門を叩いてくださったのに申し訳ないと思いつながら、足を運んでくださったことに、感謝してお見送りしました。

永遠の平安

エリザベツ 村上 順子
(7月20日・盛岡)

9月逝去者記念聖餐式

9月3日(水)午前10時30分
於 主教座聖堂
司式・説教 長谷川清純 主教

宣教師 Miss Ellen McRae

1921年9月6日逝去

執事 森 録次郎

1934年9月10日逝去

司祭 結城 光雄

1973年9月10日逝去

2025 耳を傾けようキャンペーン

神のみ声に、人々の声に、

そして世界の声に耳を傾けよう

〜となりびととなるために〜

2025年 東北教区 in 山形聖ペテロ教会

教区修養会

神のみ声に、人々の声に、世界の声に耳を傾けよう

日程：11月2日(日)～3日(月・祝)
場所：山形聖ペテロ教会
主催：2025修養会実施プロジェクト
詳細は各教会に配布されている案内をご覧ください。

- 司祭 James Chappell 1954年9月16日逝去
- 主教 コルネリオ 田崎 安男 2009年9月22日逝去
- 伝道師 ルツ 高橋 菊代 1954年9月23日逝去
- 司祭 志賀 清光 1935年9月25日逝去
- 司祭 ルカ 釜范 東祐 2002年9月27日逝去
- 司祭 ヨハネ 小野 俊作 2023年9月28日逝去